



ヨコバイ科の一種 *Singapora shinshana* の徳島県での発生と有効薬剤

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所

かねだ たけみち なかにし ともあき
兼田 武典・中西 友章

はじめに

徳島県は、かつて‘鶯宿’や‘南高’を中心に種々の品種が栽培され西日本有数のウメ産地であったが、需要の減少に伴う価格低迷や生産者の高齢化、後継者不足等により、現在の栽培面積は全国 30 位の 130 ha にまで減少している（農林水産省大臣官房統計部，2020）。しかし、吉野川市美郷ではウメによる 6 次産業化を進めるために構造改革特別区域法による酒税法の特例措置として、2008 年に全国初の梅酒特区の認定を受けるなど、梅酒をセールスポイントとしてウメの需要拡大に奮闘している。また、モモも県北部を中心に 32 ha が栽培されている（農林水産省大臣官房統計部，2020）。そのような中、2020 年に本県でヨコバイ科の一種である *Singapora shinshana* (Matsumura) の発生および被害が確認された。しかし、本種の生態には不明な点が多く、本種に対して適用のある登録薬剤がない（2021 年 1 月 18 日現在）ことから、被害がさらに拡大する恐れがある。そこで、徳島県における発生状況や本種の生態等の調査および各種薬剤の殺虫効果について室内試験を実施し、若干の知見を得たので報告する。

I 徳島県における *S. shinshana* の発見経緯

2020 年 8 月に徳島県吉野川市で、葉が白化したウメ樹を発見し、観察すると葉裏に多数の抜け殻とともにヨコバイ類が寄生していた（図-1）。成虫をサンプリングし、神戸植物防疫所に送付したところ、前年に和歌山県から特殊報が発表された（和歌山県農作物病害虫防除所，2019）ヨコバイ科の一種、*Singapora shinshana* (Matsumura)（以降、本種という）と同定された。

本種はモモ、ナシ、リンゴといったバラ科植物での寄生も報告されており、県下においてもバラ科の作物が栽



図-1 ウメ樹の葉裏に寄生する *S. shinshana* 成虫と幼虫（上）および付着した多数の抜け殻（下）

培されていることから、県下各地のウメ、モモ、ナシの栽培園（自家用栽培含む）および非栽培園（放任園・街路樹含む）において本種の見取り調査を実施した。その結果、ナシおよびモモの栽培園では発生が認められなかった（ナシでは栽培園のみ調査）が、栽培および非栽培のウメ（6 市 3 町）と非栽培のモモ（4 市 2 町）で寄生を確認した（図-2）ことから、2020 年 9 月 30 日付で、特殊報を発表した（徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所，2020）。

Occurrence of *Singapora shinshana* (Matsumura) in Tokushima Prefecture and Effective Insecticides. By Takemichi KANEDA and Tomoaki NAKANISHI

（キーワード： *Singapora shinshana*，発生，有効薬剤，ヨコバイ類，徳島，ウメ，モモ）